

6. 気象の状況

三面海に囲まれた本県は、南九州、四国南部、紀伊半島及び伊豆半島と並んで温暖な地方です。しかし両総台地は内陸性気候で寒暖差はやや大きく、反対に太平洋及び内湾沿岸は海岸性の気候で比較的暖かくなります。

雨量は地域により差はありますが、房総丘陵の南側が多く、北西部は少なくなります。特に内湾沿岸は本県でも雨量の少ない地域です。

平成16年の天候の特徴

1月から4月にかけては高気圧に覆われて晴れる日が多く、5月は低気圧や前線の影響を受けて多雨になりました。6月は太平洋高気圧が北へ張り出し日本付近で勢力が強かったため、7月を中心に9月まで高温が続きました。10月は秋雨前線や台風により月降水量の記録を更新する多雨となりました。11月は高気圧に覆われて晴れの日が多く、12月中頃まで高温が続きました。

年平均気温はかなり高く、千葉、館山が第1位、勝浦が第3位の記録を更新し、年降水量も北部でかなり多く、千葉が第2位、銚子が第3位の記録を更新しました。

平成17年の天候の特徴

1月から4月にかけて高気圧と低気圧が交互に通過し寒暖の変動の大きな状態が続きました。5月の中旬はオホーツク海高気圧の影響で気温が低くなり、6月から7月は梅雨前線が本州南岸に停滞し曇りや雨の日が多くなりました。8月から10月は高気圧に覆われて晴れて気温の高い日が多くなりましたが、11月中旬頃から日本付近に寒気が南下しやすくなり、12月は気温がかなり低くなりました。

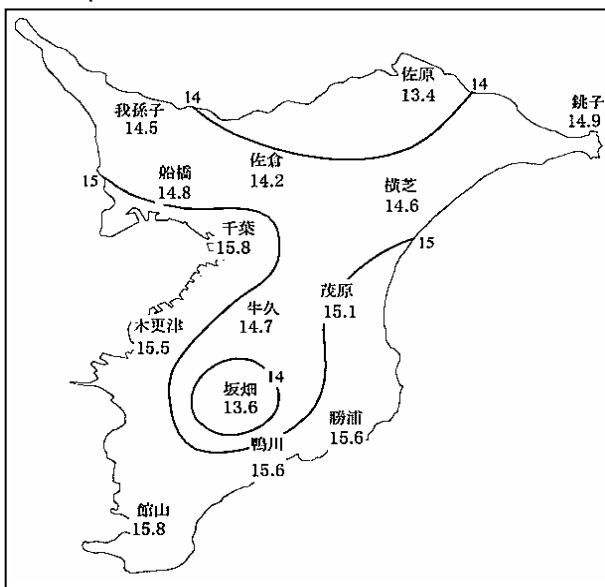
年平均気温は銚子と千葉でかなり低くなりました。年降水量は北部は平年並、南部では少なくなりました。

気象分布図

県内年間平均気温(°C)

県内年間降水量(mm)

2005年



2005年

